

## 第3回ワークショップの結果概要（案）

### 【課題解決の狙い（確認）】

- 「地域に必要な機能を維持する（高齢者、子育て、防災等）」
  - 「維持する」という視点だけではなく、地域に必要な機能だが現在はないものや不足しているものは新たに備える必要がある。機能を「向上させる」「構築する」といった表現も加えてはどうか。
  - 子育てという視点はあるが、子育てという言い方だと育てる親の視点だけになってしまう。子どもが生き生きできるような場をつくるという子どもからの視点も必要だ。使用頻度の低い施設や統廃合後の跡地は民間に売却し、需要の高い高齢者福祉施設や地域活性化につながる施設にしてほしい。雇用の創出も期待できる。
- 「地域が活性化する（魅力が増す、雇用を生む、人口が増える等）」
  - ただ場所を作り出すだけでなく、お金を地元にとどめしつくりを考へるべきだ。雇用の創出とは示されているが、それにとどまらない経済的効果の要素（所得の増大など）も視点に入れるべきだ。
- 「地域間や世代間で利用や負担の公平性やバランスがとれる」
  - 施設によっては、子どもや高齢者などは無料または低額で利用できるようにすべきだと考へる。こういったことも「利用や負担の公平性のバランスがとれる」という狙いに含まれると理解して検討を進めたい。
- 「施設が有効に利用され、無駄がなく、安全で、地域のためになる」
  - 「有効に利用され」と「無駄がなく」は同じような意味に思える。
  - 公共施設にはそれぞれ目的があるのだから、無駄な施設というのではないはずだ。また無駄かどうかの視点は施設によって異なるので、利用率の高さといった尺度で一律に測るのは違ふと思う。

### 【課題解決の考へ方・方策】

- 見直しの必要性
  - 現在ある施設にはどれも大切な役割があるので、たとへ維持・管理で税金が上がるとしても、見直しはせずに現状のまま維持すれば良いのではないか。
  - 現在ある施設を見直さないと維持、管理や、老朽化の建物の改築などで税金が上がってしまうとしたら問題だ。統廃合や集約も含め見直していくべきだと思ふ。

**■課題解決に向けた考え方**

- 施設を利用する人がいないと施設も生かされない。それには人口を増やす方向を見出したい。
- 人口減、特に出生率の低下が全国的に起こっており、潟東も例外ではない。資料では人口は減少するとあるが、人口を増やすことを考えるくらいで、ようやく現状維持が望めるのではないか。
- 人口を増加させる、あるいは人口の減少幅を極力少なくするという前提（方針）のもと、今ある公共施設を極力活かしていくという方向で考えていきたい。
- 新潟市では、他の政令指定都市との比較で、公共施設の市民一人あたりの床面積が一位であることを挙げていたが、教育や福祉などもっと行財政で注力すべきことがあり、抜本的な見直しが必要だ。
- 小学校の統廃合に伴う方策はもちろん重要だが、小学校だけを見てしまわないように、地域全体の（公共施設全体）を見て、機能の維持や向上について考える必要がある。
- 総合計画など、他の行政計画との整合を図ったり、まちづくりの方針と合致させて公共施設の将来像（地域別実行計画）を考えていく必要があるだろう。
- 将来像を考えずに費用のことだけ考えていたら、そのまま古くなって、地域に何もなくなって、誰も住まなくなってしまう。地域を大事にしたいと思えるような公共施設を考えるべきだ。

**■施設の複合化・集約化**

- 現在は、多世代で交流ができていない。世代ごとにバラバラに集約するのではなく、複合化することで、多世代が必然的に交流できるようにするべきだ。
- 機能の複合化をすることで、親世代と子ども世代もまとめて用を足すことができ、便利になる。
- 機能の複合化は、だれもが集まれる規模の大きな多目的空間とその周辺に必要な要素を組み合わせるような構成が使いやすいと考える。
- 1カ所に複合することで、コスト面でもメリットが生じる。
- 他の地区と同様、小学校の統廃合を機に、中学校体育館が十分機能や規模を満たしたものにすれば、地区としての体育館を別に用意する必要はなくなるだろう。
- 中途半端な機能の複合化は、結局使い勝手が悪いので、しっかりニーズを把握して、どう複合化するか考えるべきだ。
- 周辺の中学校では、とても使い勝手が良いつくりになっている。潟東中学校は最近完成したにもかかわらず、体育館などの大きさが中途半端で使いにくい。作るのであれば、しっかり機能を満たしたものを作るべき。

- 施設を複合していくことも必要かもしれないが、それぞれの機能は残せるように移せるとよい。
- 地域の目玉になるカモねぎまつりのようなイベントを、もっと盛り上げられるよう、現在使用している調理室や駐車場、体育館などの機能を集約化・複合化し、空いてしまったところに他の機能を入れ込むなどをしてはどうか。

#### ■新たな施設による機能強化

- スポーツ施設を機能強化したり、スポーツの推進拠点を設けたりしてはどうか。
- スポーツについて重視するべきだ。
- 「総合型地域スポーツクラブ」の活動拠点を設けてはどうか。文部科学省が進めている施策であり、また新潟市には「文化・スポーツコミッション」が設置されており、スポーツ振興に力を入れている。地域の活性化などにも貢献すると考える。
- 西小学校はサルビアパークに近く、西小学校跡地を宿泊施設として活用することで、合宿やキャンプなど集客が望め、収益を生み出す可能性がある。
- 西小学校の校舎を、研修や宿泊施設として利用できるように整え、サルビアパーク周辺で、この地域にスポーツ施設を集約してはどうか。スポーツ中心の魅力ある地域として、他地域の方にも利用してもらえるように PR も実施し、地域の活性化にもつなげていけるとよい。
- 体験交流型（農業体験、自然体験、食体験、宿泊などができる）の施設を新たに整備する。またはそうした機能を既存の施設に設ける。例えば、廃校となる小学校の一つを地域外の人でも利用できる体験交流型の施設とする。地域の魅力になり、雇用の場も生まれ、また多世代が利用できることなどから、活性化につながる。
- 子どもの運動不足が気になっている。子どもが思いきり運動できるような環境をつくりたい。ただ場をつくるだけでなく良い指導者も大切だ。
- 子どもたちは本当は外で遊びたいと思っているが、現在の学童施設等の環境上なかなか走り回るような環境がない。
- 子育てしやすい落ちついた環境が今はあるが、その状況を維持する必要がある。
- 潟東には、若者はいるが独り暮らしが多い。世帯を持ってもらい、少子化の歯止めにもつなげるよう、田んぼの中での婚活、潟婚という取り組みを行っている。こうした取り組みにも活用できる施設があると、若い人でも寄りやすい施設になると思う。
- 人口を増やすことを前提として考えると、地区全体が市街化調整区域となっている現在の規制を緩和して、住宅なども建てられるようにしてほしい。

**■施設の転用**

- 南小学校の体育館はまだ新しいため、施設をそのままに屋内競技用として使うべきだ。
- 東小学校体育館は、床をはがすなどして、降雪・降雨時にも野球やグラウンドゴルフなど雨天対応の運動施設としてリニューアルして活用するべきだ。
- 3校の小学校校舎は地域のために活かせるように活用したい。ここに、保育や子どもも運動のできる場、高齢の方が集える場などの機能が集約すると、多世代交流にもつながるのではないか。
- 廃校後の西小学校には、民間運営でもよいので地域の中の多世代が集うことのできる機能を持たせたい。

**■現状機能の維持・向上**

- 避難所として、3つの小学校は残すべきだ。
- 3つの小学校の跡地・跡施設は、避難所として活用すべき。
- ある別の地区の統廃合された学校は、体育館だけ解体し、校舎はかさ上げし、避難所機能として地域管理の場として活用されていると聞く。こうした活用も考えるべきだ。
- 東小学校は、現在は地盤が低いため、水害時には避難所として使うことができないが、東小学校が新たな拠点になるのであれば、あわせてかさ上げなどして、避難所としても活用できるようにリニューアルするべきだ。

**■施設配置とアクセス性**

- 南小学校跡地は、道路からのアクセスがよいので中心としてふさわしいと思う。
- 現在の東小学校は、現在出張所などの地区の中心部とも近くアクセスしやすい。集約する場所にふさわしいと考える。
- 東小学校周辺には、空間の余裕があるので、駐車場の確保などもしやすく便利になる。車社会で車移動が多いので各施設にはある程度の広さを有する駐車場は必須である。
- 現在のゲートボール場は屋根はついているが、駐車場がなく使用しにくい。ゲートボール場の機能を西小学校のグラウンドに移してはどうか。
- 機能を他施設に移した際に、使用しなくなる建物の土地を、大型バスなどが駐車できる駐車場にできると、遠方からイベントに参加してもらう際に集客もしやすくなるのではないか。
- 公共施設が多く集まる湯東の中心部だけでなく、車に乗らない子どもや、高齢者

- などの徒歩圏内で集まり過ごせる施設があると、多くの世代で施設が利用できる。
- 3 小学校の敷地は、各部落からの徒歩圏内で行ける立地にあることは利点なので、校舎及びグラウンドを利用して、地域の多世代の集える場とできるとよいのではないか。
  - 現在あるコミュニティバスは廃止し運行されなくなるので、例えば市で持っているバスを、運行したい日だけ自治会ごとに日借りで借りることはできないか。
  - 東公園はバーベキューやキャンプができる施設だが、周辺に住宅団地があり、騒音のトラブルが生じ、夜間のバーベキューなどは使えなくなってしまった。周辺への騒音等のトラブルを避けるためにも、周辺環境との関係を考えるべきだ。

### ■施設の管理・運営

- 現在は施設ごとに管理者が異なるため利用しづらい。
- 施設が新しくなっても、管理が縦割りだったり、ルールが異なったりと結局使いづらくなってしまふ。管理の一本化されるような工夫が必要だ。
- 湯東体育館も料金体系が違うために、不便になっている。
- 敷地に区切りもない一体的なゾーンの中の施設なのに、管理が違うので駐車場が利用できないなどの融通が利かない面も多い。こうした運営・管理をわかりやすく、使い勝手がよいようにすべきだ。
- 管理を一元化させるために、市の直営が難しいようであれば、まとめて民間への管理委託など民間活用も考えるべきだ。
- 現在やっているわくわくドキドキクラブのような事業が、さらに拡充することができると思う。現在は施設が無料で使えないため、日程によって場所を変えたりして実施している。
- 運動・文化系の施設には、指導ができる人を配置する。そうすることで施設の機能が向上し、利用率の向上も図ることができる。
- 施設管理をする人が指導者も兼ねられるとよい。
- スポーツ施設の機能の向上は、ハード面の方策だけではなく、良い指導者を配置することによって実現できる場合もある。
- 子どものための施設では、ただ場をつくるだけでなく良い指導者がいることも大切だ。
- 指導者として、例えば学生や地域住民などボランティアの活用も考えられる。
- 利用法、活用法などを案内してくれる施設リーダー的な方がいるとよいのではないか。
- 以前は小学校区で行っていた地区の行事が、現在は中学校区で行われるようにな

ったため、利用者がいなくて草が伸び放題で荒れた印象である。草刈りには労力もコストもかかるために、そのまま放置されてしまっている。歩いて行ける地区の拠点として、多世代が集まり行事などにも利用できれば、人が入るので荒れるのも防げると思う。

- 現在、カモねぎまつりの準備は生活体験館の給食室で行っているが、以前使用していたように現行の給食センターでも賄えるようにすると準備できる数が増えて良いのではないかと。現在は民間委託では地区のイベントであっても利用できないが、規制緩和を行い利用できるようにしてはどうか。
- 現在、公民館など施設利用は団体のみで一般の人は利用しづらい。例えば、個人でお稽古ごとの会場として使いたくても、参加者から会費を徴収する場合には利用はできない。施設が有効に利用されるために、団体に属さない一般の人の利用も可能にしてはどうか。
- 施設を集約したとしても、やっているプログラムなどが必要とする人にしっかり伝わらなければ、利用率は上がらない。現在、わくわくドキドキクラブ（地域の方が指導役となって地域の公共施設でスポーツや文化教養の講座実施事業／公民館事業）のように、防災無線を使って一日3回案内していても、日中働いている人には情報が届いていない。
- 風呂などの施設は個人の利用でもわかりやすいが、他の施設は一般の人には利用方法がわかりづらく、知らない情報も多い。

## 【進め方】

### ■意見の反映

- 課題解決の狙いは、この先のステップで複数案を比較評価するときの評価項目の基準になるという説明だったので、評価項目にワークショップで検討した意見・意図が正しく入るか気になる。正しく入るような記述・表現を事務局で検討してほしい。
- 小学校の統廃合の話し合いの際に、その意見がどのように反映され決定されたのかがわからなかった。今回のワークショップでは、どのようにニーズを吸い上げて決定するのか、どの意見でどういう成果になったのかを説明しながら進めてほしい。
- 課題解決の狙いに描かれていることはもっともだが、現在の湯東の魅力、継承すべきもの、ニーズの掘り起こしがないと、何が地域の魅力で何を地域のために残したいのかがわからない。ニーズを引き出したうえで、施設に反映、発展していきたいようにしたい。

- 年代、世代、各種団体などそれぞれのニーズが異なるので、それぞれのニーズを抽出して反映させることが必要だ。

#### ■情報提供の要望

- 課題解決の狙いに「過度な財政負担が将来世代に残らない」とあるので、それに関連する質問がある。小学校が統廃合されることで（学校の数が3つから1つに減ることで）、人件費・管理費等の経費はどの程度削減されるのか知りたい。
- 上越市に廃校を利用した体験交流施設があり、「越後田舎体験推進協議会」という事務局組織もあるので、参考になるのではないかと。また、文部科学省では「みんなの廃校プロジェクト」というパンフレットを発行したり、学校施設を学校以外に転用する際の財産処分手続きの簡素化を図るなど、自治体の取組を支援している。
- 他の地域では、とても良い事例がたくさんある。こうした事例をみて、施設を考えるべきだ。もっと事例を知る必要がある。

#### ■ワークショップの進め方

- 小学校の跡地利用についての話をする際には、住んでいる地域ごとにグループ分けをしてほしい。自分の住んでいる地域の周辺のことしか良く知らないのと、どの小学校の跡地の話をしているのかわからなくなることがある。